

Catalog (2nd ed.), O'Reilly & Associates, 544 pp.
 道下宣博, 本間泰則, 1990: 異機種接続と TCP/IP 絵とき読本, オーム社, 213 pp.
 Software Design, 1994年8月号, 技術評論社.
 UNIX MAGAZINE (特に1994年1月号連載開始の「インターネットFYI」), アスキー.
 Wide Project 編, 1994: インターネット参加の手引き, 共立出版, 408 pp.

[11] ネットワーク上の情報の所在を表現する書式の一つである URL (Uniform Resource Locators) による表現. [アクセス方式]:// [ホスト名&アドレス]/ [ディレクトリ・パス] を意味する. この場合, info.isoc.org というホストの home.html というファイルを http というプロトコル (WWW で使われているプロトコル) で読みに行くことを示す.

日本気象学会1995年度春季大会の報告

日本気象学会1995年度春季大会は, 気象庁と KKR 東京を会場として1995年5月15日(月)~17日(水)に行われた. 参加者数は616名(一般会員394, 学生会員154, 非会員68)であった.

2日目午後には, 気象庁講堂で大会シンポジウム「1994年の日本の夏」が行われた. これに続いて総会が開かれた. その際, 中島映至会員に日本気象学会賞が, 田中正之会員に藤原賞が授与され, 総会終了後に受賞記念講演が行われた.

一般講演の発表申込件数は331件で, 過去3回とほぼ同じであった. その内訳は第1種講演が249, 第2種講演が54, ポスターが28件であった. 第2種講演として申し込まれた講演のうち, 予稿が第2種の要件を満たさない等の理由でプログラム編成時に第1種に変更し

たものが15件(前回は14件)あった. なお今回から発表件数の制限が強化され, 口頭発表・ポスター発表ともに, 1講演者についてそれぞれ1件以内(ただしスペシャル・セッションはこの制限外)となった. その結果, ポスター発表の件数がこれまでよりもやや多くなった. スペシャル・セッションは, 「大陸スケールのエネルギー・水収支と陸面過程」をテーマとして第1日目に行われ, 24件の発表があった.

会期中およびその前後には, 個別のテーマによる研究会が計3件開かれた.

今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた気象庁海洋気象部と東京管区気象台の皆様に深く感謝の意を表します.

1995年6月 講演企画委員会